

事業見直し中間報告

令和2年度から本格的に行っている「事業見直し」。今年度も適切な行政サービスと公共施設のあり方について、ポイントを絞って見直しを進めています。「町の収入に対して過剰な（不要な）支出はないか」を洗い出し、町の財政規模に合った経常経費の適正化を図っていきます。

お気軽にご意見をお寄せください！

【お問い合わせ先】

役場総合政策課

☎ 52-2111（内線230）

✉ zaisei@town.kaneyama.yamagata.jp



メールはこちらから

■町の財政規模

令和2年度に実施された国勢調査における町の人口は5,074人（速報値）。平成27年度の前回調査と比較して757名が減少し、減少率は▲13.0%と県内最大となりました。国立社会保障・人口問題研究所の見込みでは、10年後に4,200人、20年後に3,000人程度になると予想されています。人口減少に比例して、町の収入も減少します。収入の約半分を占める普通交付税は、原則として国勢調査人口を基礎として算出されることから、人口と財政運営は密接な関係にあると言えます。

■課題と見直しの考え方

財政状況を悪化させる大きな要因は「**歳入規模に合わない事業実施**」です。現在の財政計画の見込みどおりに事業を実施した場合、来年度から毎年2億円以上の基金（貯金）の取崩しが必要であり、5～6年後には貯金が底をつく危険性もあります。

そこで、事業見直しにおいては、一般財源で「2億円」の削減を目標としました。一般財源とは、町民税や地方交付税など、町の裁量で使うことのできるお金です。多くの事業は、一般財源を元手に実施しているため、中には縮小や廃

止と判断する事業もあると考えられます。

削減や縮小、廃止などと聞くと、どうしてもマイナスに捉えてしまいがち。しかし、これらは福祉や教育、除雪など、より生活に身近なサービスを守り、そして充実させるための改善です。少し大げさですが、「もし自分の家の前に除雪が来なくなったら…」と考えると、生活そのものに支障をきたします。そうならないように、できるだけ早期の改善が必要であると考えます。

③グリーンバレー神室一帯の運営

平成元年にカムロスキー場、平成10年にはホテルシェーネスハイム金山を開業し、ホットハウスカム口などを含む一帯を「グリーンバレー神室」として整備してきました。観光の中心地として、町内外の多くの皆さんから親しまれている一方で、近年は新型コロナウイルス感染症等の影響により、来場者及び施設一帯の収入が激減している現状にあります。

このような中、エリア一帯における今後のあり方を本格的に検討しようと、専門家による経営コンサルティング分析を実施しました。6月には「エリア一帯で毎年約8,100万円の赤字が生じており、その分が町の持ち出しとなっている」という診断結果が

示されました。これは、コロナ禍以前のデータに基づく分析であり、現状ではますます運営が苦しくなっています。いくつかの改善策が提案されましたが、残念ながらどれも赤字を解消できるような抜本的なものではありません。また、分析結果には建物更新などの支出は含まれていません。現在、老朽化したホットハウスカム口の改築を検討しており、最大で6億2,000万円（概算）の費用が想定されています。また、近い将来ホテルやリフトの大規模改修も必要となってきます。

分析結果を踏まえて、町民を中心に組織する検討委員会において、今後のグリーンバレー神室の運営

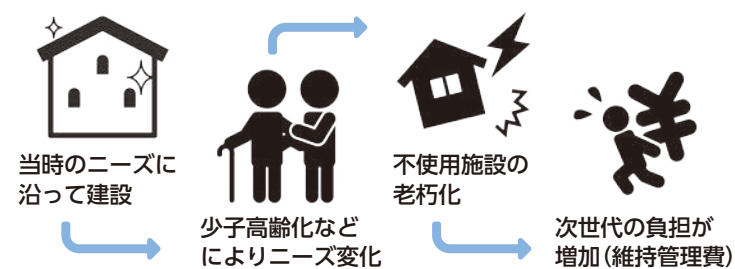
①事業見直し

一般財源の削減には必ずしもつながらない見直しも含まれますが、今後の財政運営に大きく関わる次の事項について、どのような方法がベストなのか、職員による検討組織を立ち上げて検討しています。

No.	検討事項	内容
1	廃校の利活用	旧中田小と来年4月に閉校する有屋小、明安小の利活用について検討。令和2年度から継続して検討しており、現在の活用法は次のとおり。 ●旧中田小 防災資機材の保管場所と避難所（防災資機材は有屋小、明安小にも分配） ●有屋小 避難所や地域活動等での利用場所 ●明安小 [案1] 避難所として活用しながら民間譲渡や有償貸付を検討 [案2] 中央公民館機能移転や放課後子ども教室の活動場所として検討
2	中央公民館	既存公共施設への機能移転を「中央公民館あり方検討会」で検討中。職員の検討委員会では、やくし苑、体育センターなどが隣接する農村環境改善センターへの移転が有力案。
3	避難所機能	公共施設と各地区公民館等の避難所について適正な収容可能人員を改めて確認のうえ、コロナ禍を考慮した現実的な避難所のあり方を検討中。
4	路線バス・スクールバスの運行	路線バスについて、「デマンド式」の導入を検討。スクールバスは来年度統合となる小学校の児童に加え、中学生も利用できるようサービスの拡充を検討中。
5	デジタル化の推進	7月に公式LINEの運用開始。その他、各手続きの押印廃止や電子申請など、行政サービスのデジタル化を検討中。
6	道の駅構想	「北のゲートウェイ構想」に対する町のスタンスや町独自の「道の駅のような施設」（中規模で情報センター機能や特産品等を求められるような施設）の設置の可能性について検討中。

②公共施設の機能集約化（公共施設管理計画の見直し）

【今後の公共施設管理における課題イメージ】



住民サービスを低下させることなく、施設数と維持管理費を減らすことが、次世代の負担を減らすためにも大切です。また、施設は安全に利用できることが大前提。全ての施設を計画的に維持管理していくために、人口規模や町民ニーズ、利用見込み、安全性などの観点から施設ごとのあり方を検討し、今年度中に公共施設管理計画を更新、公表する予定です。

●改めて判断を迫られる「グリーンバレー神室」の経営状況

【経営コンサルティングで示された今後の方向性】

No.	方向性	改善額
1	現状通り運営	毎年8,100万円の赤字
2	スキー場の撤退	1,800万円の赤字解消
3	ホテル及びレストランの撤退	1,300万円の赤字解消
4	ホットハウスカム口の撤退	1,900万円の赤字解消
5	すべて撤退	8,100万円の赤字解消
6	売却又は譲渡	売却価格により収入

※赤字解消額に撤退経費（施設の解体など）は含みません



最新の検討状況は、こちらからご確認ください！

